

Circle K Sunkus



株式会社サークルKサンクス

2009年2月期中間期

2008年3月1日～2008年8月31日

【証券コード:3337】

WAKU WAKU!

株主通信

2009年2月期中間期

CONTENTS

- 01 株主の皆さまへ
- 02 CHANGE
～夢WAKU²プロジェクト／
新店契約統一～
- 03 CHANGE～商品情報～
- 05 Topics～新サービスのご紹介～
- 06 投資家の視点
- 09 要約財務諸表
- 14 コンビニエンストア業界比較
- 15 社会的責任への取組み
- 16 株主様アンケート結果のご報告
- 17 株主還元策
- 18 株式情報／会社情報

2008年3月1日～2008年8月31日



株主の皆さんには、平素より当社へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当中間期は、前期に新ブランドを立ち上げたオリジナルのパン・デザートの売上が好調に推移したほか、主力のファーストフードでも回復傾向を示すなど、「攻めのマーチャンダイジング」のもとに取組んでいる主力商品の強化と育成の手応えを感じられる結果となりました。たばこ自動販売機へのtaspo（タスコ・成人識別ICカード）導入に伴いたばこやその関連商品の売上が伸長したことにも加え、7月の猛暑により夏物商材の売上が好調に推移したことから、既存店売上高は前年同期を2.7%上回り、新店日販も47万5千円と前年同期を4万9千円上回り、大きく改善することができました。当中間期は大型の設備投資に伴う費用増加などにより減益計画を組んでいましたが、売上好調の寄与で增收増益を達成することができました。

当社は11月以降の新店より、ブランド毎に異なつていたフランチャイズ契約を一本化いたします。私は社長に

「挑戦」と「役割」
キーワードは
“CHANGE”

中村元彦
代表取締役社長

就任して以来、当社の将来あるべき姿を描くうえで、契約の一本化を何が何でも実現しなければいけないと考えていました。これにより、垣根のない店舗開発および指導体制の構築を図り、業務効率の向上を促進する考えです。主力商品の強化と育成の面では、パスタ新ブランド「rubetta」を投入し、オリジナルパン・デザートに次ぐ第3の看板商品として育成してまいります。また、立地条件に対応した品揃えとして新たに「フライヤー」を導入することにいたしました。2010年度までに、約2,000店舗に拡大し、カウンターフーズの売上の向上を目指します。このように下期も様々な取組みに「挑戦」してまいります。

今期、当社は加盟店と本部が一丸となってお客様に愛されるお店を目指す「夢WAKU²プロジェクト」に取組んでいます。過去の考え方、仕事のやり方の「変革（CHANGE）」を図り、売上と業績の向上を目指してまいる所存です。株主の皆さんには、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

夢 WAKU² プロジェクト

～キーワードはCHANGE～

今期当社は、加盟店と本部が一丸となって「お客様に愛されるお店」を目指す全社プロジェクト「夢WAKU²プロジェクト」に取り組んでいます。「CHANGE（チェンジ）」をキーワードに掲げ、今までのやり方を変え、接客レベルの向上、新しい商品の開発や販売方法に挑戦していくことで、顧客価値の最大化を目指しています。

<夢WAKU²プロジェクト下期の取組み>

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
商品・サービス への挑戦			<ul style="list-style-type: none"> ●加盟店アイデア商品（ほがら菓たいむ・お弁当） ●ホームページ・リニューアル ●パスタ“rubetta” 新ブランド登場 ●カルワザステーション・マルチコピー機 	<ul style="list-style-type: none"> ●「フライヤー」導入開始 		
接客レベル向上 への挑戦				<ul style="list-style-type: none"> ●フレンドリーコンクール 		

加盟店アイデア商品

夢WAKU²プロジェクトの一環として、加盟店スタッフから募集したアイデアの商品化に取り組んでいます。当中間期の「Cherie Dolce」での商品化に続き、下期には第2弾としてオリジナル菓子「ほがら菓たいむ」、また第3弾としてお弁当での商品化も計画し、加盟店と一丸となってWAKUWAKU感のある差別化を図れる商品を開発してまいります。

フレンドリーコンクール

当中間期には、加盟店の意識改革を目指し全国各地で「お客様満足向上フォーラム」を開催しましたが、下期にはスタッフ教育の集大成として、全国の加盟店スタッフを対象としたフレンドリーコンクールを実施します。フレンドリーコンクールを通じて、加盟店スタッフの戦力化、接客レベルの向上につなげ、お客様満足度の向上を目指してまいります。

新店契約統一



2004年の合併以降、当社ではフランチャイズ契約の統合を除くあらゆる部門の業務統合を推進してまいりました。そしていよいよ、2008年11月以降の新店より、これまでブランド毎に異なっていたフランチャイズ契約を統合することにしました。契約を統一することにより、ブランド間の業務の不一致を解消するとともに、垣根のない店舗開発・指導体制を実現し、業務効率のさらなる向上を図ってまいります。

パスタ新ブランド「rubetta」誕生!!

10月14日、サークルKサンクスのパスタがさらに美味しいくなって生まれ変わりました!!パスタ新ブランド名は「rubetta（ルベッタ）」です。新ブランドでは、プレミアム系商品としてイタリアシェアNo.1のバリラ社のパスタを採用するなど、麺のおいしさに徹底的にこだわりました。また、ソースにもこだわりの素材を使用し、今まで以上の本格感が味わえます。ミートソースなどの「定番商品」に加え、今回は高付加価値の「プレミアム系」を品揃えに追加したほか、パスタ市場で人気上昇中の「和風パスタ」でもアイテムを拡充しました。バラエティ豊かな品揃えをご提供することで、新しいパスタブランド「rubetta」をオリジナルパン「まごころ仕込み おいしいパン生活」、オリジナルデザート「Cherie Dolce」に続く当社の第3の看板商品として育成してまいります。



「taberu（食べる）」をひっくり返して「rubetta（ルベッタ）」と名付けました。逆立ちしても食べたい! 天地が逆さになんでも食べたい! という思いが込められています。

ソースへのこだわり

鹿児島県枕崎産鰹節と北海道産真昆布を使っただしの風味が豊かな仕上がりです。本醸造醤油をベースににんにくと玉ねぎの香味野菜の旨みを利かせました!!

トッピングへのこだわり

ほうれん草のほか、ベーコンやコーンなど人気の具材をのせました。

**ベーコンとほうれん草の和風パスタ
¥350（税込み）**



麺へのこだわり

デュラムセモリナを100%使用した麺は、従来商品より細めの1.6mmを使用しました。弾力のあるプリッとした本格派の食感をお楽しみいただけます!!

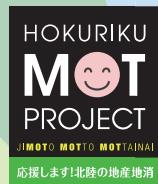


社長の中村が参加し、マスコミ向けのパスタ新ブランド発表会を9月24・25日に横浜と名古屋で開催しました。この模様は、新聞やテレビでも紹介されました!!

MOTプロジェクト～もっと地元の味を!!～

当社は、地域の行政や生産者と連携して地域独自商品の企画・開発を行い、「地産地消」の推進をコンセプトとした「MOT（もっと）プロジェクト」に取組んでいます。前期にスタートした北陸と静岡に続き、当中間期では信州、青森、四国、北海道の4地域でもMOTプロジェクトを立ち上げました。また、2008年10月には宮城へもMOTプロジェクトの展開を拡大しました。今後もこの取組みを通じて、地元のお客様に魅力ある商品開発を進めるとともに、地域の振興と活性化へ貢献してまいります。

北陸MOTプロジェクトから生まれた「寿司むすび」は、6月16日より全国へ販売を拡大しました!!



北陸MOTプロジェクトロゴマーク



寿司むすび
まぐろたたき



寿司むすび
炙りサーモンマヨ

JIMOTO（地元）
MOTTO！（もっと）
MOTTAINAI（もったいない）

青森MOTプロジェクトでは、地元テレビ局の青森放送の人気番組「@なまたれ」とタイアップした商品を期間限定（4月29日より2週間）で販売しました!!



青森MOTプロジェクトロゴマーク



青森県産ほたて・いかカレー



風間浦産たこカレー

商品パッケージ ～立地環境に合わせた商品開発!!～

個店のおかれている立地や商圈は様々なため、店舗に対するお客様のニーズも立地条件によって違いがあります。基本的な品揃えでは対応しきれない特徴的なニーズに対応してくため、立地対応型品揃えを商品パッケージとしてご提案してまいります。現在、一部店舗にて焼きたてパンやフルーツジュースなどの実験を強化しているほか、立地対応型品揃えの準定番として下期よりフライヤーを一部店舗に導入することにいたしました。今後2011年2月期までに約2,000店規模へと拡大してまいります。フライヤーを導入しカウンター商品の品揃えの幅を広げるとともに、フライドチキンなどの、素材感を引き立てたサクサクした食感の商品をご提供してまいります。

Topics～新サービスのご紹介～

新サービスへの大型投資

当社は、将来の売上や利益の拡大を目指し、システム・サービス関連の大型投資を行っています。4月より順次導入を進めている「新型マルチコピー機」に続き、9月からは店頭マルチメディア端末「カルワザステーション」の導入を始めました。2009年8月までに全国の店舗（一部店舗を除く）への導入を計画しています。新サービスの導入で、お客様にとって利便性の高いコンビニエンスストアを目指し、客数の増加につなげる考えです。

・店頭マルチメディア端末「カルワザステーション」

「カルワザステーション」は、お客様がお手軽に各種サービスをご利用できる店頭マルチメディア端末です。「カルワザステーション」の導入によって、これまで対応できなかった多様なサービス商材の展開が可能となります。今後はお客様のニーズに対応した魅力的なコンテンツを順次追加してまいります。

現在ご利用いただけるコンテンツのご紹介

・KARUWAZA CLUBの

新規入会登録・ポイント確認・交換

カルワザステーションでは、パソコンや携帯電話などのインターネット環境をお持ちでないお客様も、お買い物で貯めたポイントの確認や賞品（サークルK・サンクスの店舗で使用できるプレカード）などとの交換手続きが簡単に利用できるようになりました!!

・ネットプリカサービス

・Edyギフト(受取)サービス



・新型マルチコピー機

新型マルチコピー機では、コピー機能などの基本サービスの拡充に加え、業界初のカレンダープリントサービスや、レ判写真プリントサービスなどの便利な機能が利用できるようになりました。また、安心してご利用いただけるよう個人情報などの流出を防ぐデータ自動消去機能を搭載しています。

見やすい画面で簡単操作!!

快速コピーで待ち時間短縮!

基本サービスの拡充!

両面コピーやファックス送受信サービスなどのより便利な機能を搭載し、操作は9ヵ国語で対応!!

セキュリティに配慮した安心設計!

プリント出力データは自動的に消去!!



新型マルチコピー機

綺麗で楽しいプリントサービス!

自分だけのオリジナルカレンダーが作れるカレンダープリントサービスに加え、レ判写真や証明写真も高画質でプリントできます!!

1 既存店売上高前年比

Q. 当中間期(2008年8月期)の既存店売上高前年比は?

既存店売上高前年比 ↗2.7%増

当中間期は、前期に新ブランドを立ち上げたオリジナルパン「まごころ仕込み おいしいパン生活」とオリジナルデザート「Cherie Dolce」がいずれも売上が好調だったことや、5月の全面リニューアルによりサンドイッチの売上が前年を大きく上回るなど、「攻め」の商品開発が実を結びました。また、たばこ自動販売機へのtaspo(タスポ・成人識別ICカード)導入に伴うたばこの売上伸長に加え、7月が全国的に猛暑に見舞われたことにより夏物商材が好調に推移しました。これらに伴い客数が増加した結果、既存店売上高前年比は期首計画1.6%減を大幅に上回り2.7%増となりました。

Q. 通期の見通しは?

既存店売上高前年比は期首計画 ↓1.0%減を ↗3.8%増に上方修正

下期も引き続きtaspoカード効果によるたばこの売上伸長が見込まれることに加え、商品力強化の効果や客数増を見込み、通期の既存店売上高前年比を期首計画の1.0%減から3.8%増としました。



グラフ解説

Q. 既存店客数が伸長したのはなぜ?

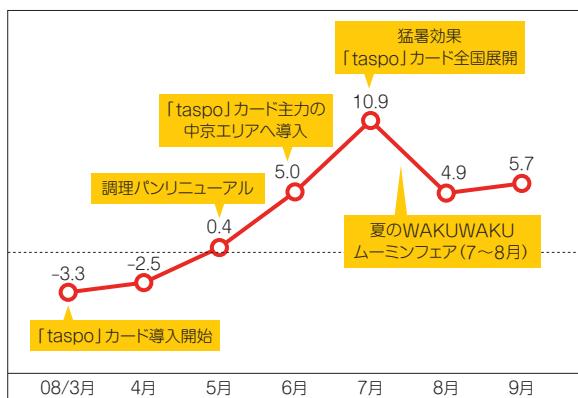
既存店客数は、たばこ自動販売機へのtaspoカードの導入地区が順次拡大するに従って伸長率が大きくなりました。導入地区が全国展開となった7月の既存店客数は98人増、8月では30人増と前年同月を大きく上回りました。

Q. 7月度の既存店売上高前年比が10.9%増と高いのはなぜ?

7月度はたばこ自動販売機へのtaspoカードの導入が全国で完了したこと、猛暑に見舞われたことで夏物商材が好調でした。また、基幹商品である米飯類やサンドイッチなどのファーストフード、デザートやパンなどの生鮮食品が5月頃より回復基調となつたことも押し上げ要因となりました。

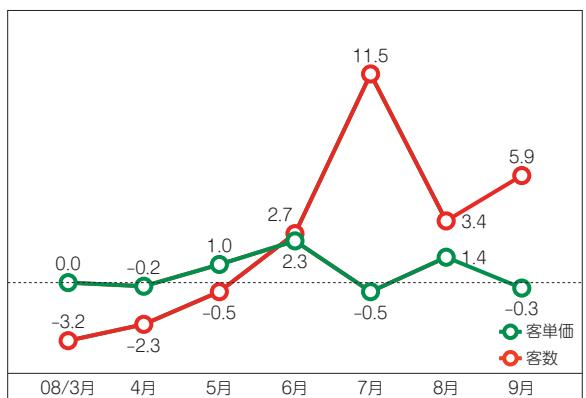
既存店売上高前年比 月次推移

(単位:%)



既存店客数・客単価前年比 月次推移

(単位:%)



2 出店および閉店

Q. 当中間期(2008年8月期)における出店および閉店の状況は?

新店日販、前年同期比4万9千円UP

当中間期も引き続き「質の向上」を第一優先に出店を進めたことにより、当中間期の新店日販は47万5千円と計画を2万5千円上回り、前年同期比では4万9千円プラスと質の改善を図ることができました。なお、当中間期におけるサークルKサンクスの出店数は、121店と計画には16店及びませんでした。また、閉店は118店と計画に対して15店未達となりました。これらの結果、2008年8月末の店舗数は4,932店となりました。

※店舗数は単体ベース

Q. 通期の見通しは?

「質」の向上と「量」の確保

下期も引き続き店舗毎の「質」を重視するとともに、高日販が見込める関東・中京への出店を強化してまいります。また、チェーンの成長には店舗数の純増が不可欠なことから、「量」の確保も目指してまいります。ベンチャー社員制度や複数店経営へのロイヤルティ優遇制度などを促進し、「質」の高い優良な加盟店候補者を確保することで出店計画の達成を目指す考えです。通期の出店数および閉店数は、上期の計画未達分を下期計画に加え、出店数280店・閉店数260店を予定しています。これらの結果、2009年2月末の店舗数は前期末比20店純増の4,949店となる見込みです。

※店舗数は単体ベース



ベンチャー社員制度って何?

ベンチャー社員制度とは、サークルKサンクスの開業を前提とした契約社員制度です。直営店にて研修・勤務しながら、店舗経営のノウハウを学び独立を目指していただきます。独立する際には、開業準備手数料などの免除や独立奨励金の支給など資金面でもバックアップしています。当中間期には14名の方が独立され、当中間期末の社員数は52名となりました。通期では33店の独立を見込んでいます。

都道府県別店舗数:

37都道府県 6,143店 (2008年8月31日現在)

北海道
0/204

沖縄		山口	島根	鳥取	京都	福井	石川	青森	岩手
佐賀	福岡	広島	岡山	兵庫	滋賀	富山	新潟	秋田	宮城
長崎	大分	4/43	87/48	51/121	49/7	69/80	87/0	26/80	0/114
熊本	宮崎	愛媛 94/54	香川 14/60	157/255	224/20	123/0	0/54	0/54	0/21
0/23	鹿児島 0/78	奈良 47/40	愛知 831/196	群馬 0/9	埼玉 0/165	東京 85/564	0/36	0/36	0/47
高知 29/29	徳島 11/72	和歌山 20/0	三重 183/31	静岡 284/40	神奈川 138/192		千葉 0/188		

左:サークルK店舗数 / 右:サンクス店舗数 (単位:店)

(注) 上記はエリアフランチャイザーの店舗数を含んでいます。なお、「99イチバ」(67店)およびニューコンセプトストア「Fork Talk」(1店)の店舗数は含んでいません。

3 連結業績

Q. 当中間期(2008年8月期)の連結業績は?

売上の好調に支えられて、増収増益となりました

P.6~7でお伝えした通り、既存店売上高前年比や新店日販が伸長し、当中間期のチェーン全店売上高は計画を195億円上回りました。売上の好調で加盟店からの収入や自営店売上高が増加したことにより、営業総収入は前年同期比4.3%増の増収となりました。一方、広告宣伝費などの減少により販売費及び一般管理費が前年同期を下回ったことで、営業利益は137億9百万円と前年同期を18.5%上回り、また経常利益は前年同期比22.4%増の135億9千5百万円、中間純利益でも前年同期比30.9%増の58億7千1百万円と増益を達成することができました。

Q. 通期の見通しは?

通期計画を上方修正

経常利益と当期純利益では増益の見込みです

当期は大型設備投資に伴う販売費及び一般管理費の増加などにより、期首の通期計画では減益を見込んでいましたが、上期の業績を織り込むとともに、下期もtaspoカード効果によるたばこの売上伸長を見込み、通期の利益計画を上方修正いたしました。下期より新システムやP.5でご紹介のサービス機器の導入の本格化で、これら設備投資の関連費用が増加するため、営業利益では前期比3.0%減となる見込みです。しかし、当期は閉店数が前期より205店減少するため、閉店に関わる費用が減少し、経常利益では195億5千万円と前期を0.4%上回る見込みです。また、当期純利益でも87億4千万円と前期比1.9%増の増益を計画しています。

連結業績ハイライト

(単位:百万円)

	08/8期	前年同期比
チェーン全店売上高	476,457	2.8%
営業総収入	109,017	4.3%
営業総利益	70,965	1.9%
営業利益	13,709	18.5%
経常利益	13,595	22.4%
中間純利益	5,871	30.9%

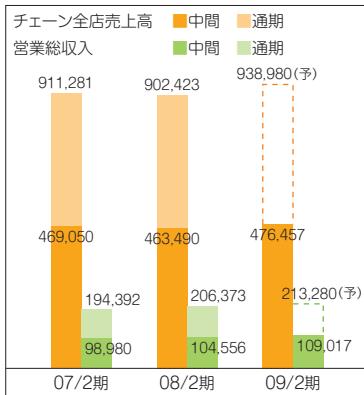
連結業績予想(修正後)

(単位:百万円)

	09/2期(予)	前期比
チェーン全店売上高	938,980	4.1%
営業総収入	213,280	3.3%
営業総利益	138,040	1.7%
営業利益	20,470	-3.0%
経常利益	19,550	0.4%
当期純利益	8,740	1.9%

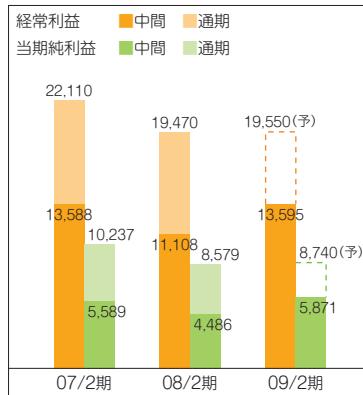
チェーン全店売上高／ 営業総収入

(単位:百万円)



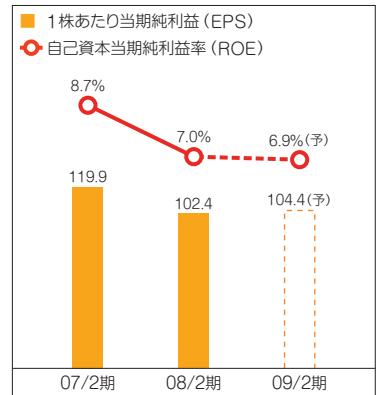
経常利益／ 当期純利益

(単位:百万円)



1株あたり当期純利益 (EPS)／ 自己資本当期純利益率 (ROE)

(単位:円)



要約財務諸表

連結子会社

2007年8月期と2008年2月期、2008年8月期の連結子会社は次の6社です。サンクス青森(株)、サンクス埼玉(株)、(株)サンクス北関東、サンクス西四国(株)の4社は当社のエリアフランチャイザーです。また、(株)ゼロネットワークスは当社オリジナルブランドのATM「ゼロバンク」や「バンクタイム」の運営受託を行っており、(株)99イチバは99円の価格帯を中心とした生鮮ミニスーパーを開設しています。

現金及び預金、有価証券

現金及び預金611億8千8百万円と有価証券のうち合同運用金銭信託にて運用している30億円を除く200億5千1百万円を合計した812億4千万円が、P.12の連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の中間期末残高と一致します。

ソフトウェア仮勘定

2008年8月期のソフトウェア仮勘定は前期末に比べて21億4千2百万円増加しました。ソフトウェア仮勘定の主な内容は、2008年9月より店舗へ順次導入を進めている新ストアコミュニケーションサーバーのソフトウェア資産取得のために支出した額で、下期に稼働を予定している分です。新ストアコミュニケーションサーバーの導入により、店舗ネットワークを充実させ、本部と加盟店間の各種情報の送受信、発注支援など店舗運営上のあらゆる側面を改善してまいります。

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2008年8月期 2008年8月31日現在	2008年2月期 2008年2月29日現在	2007年8月期 2007年8月31日現在
[資産の部]			
流動資産	108,113	94,243	96,826
現金及び預金	61,188	52,736	48,289
加盟店貸勘定	2,410	3,208	2,617
有価証券	23,051	17,026	23,019
たな卸資産	2,779	2,542	2,667
繰延税金資産	1,131	1,050	958
未収入金	9,222	9,697	11,287
その他	8,740	8,331	8,420
貸倒引当金	△411	△348	△434
固定資産	127,608	124,577	124,561
有形固定資産	47,110	47,355	46,201
建物及び構築物	33,008	33,648	32,726
器具及び備品	3,709	3,864	4,014
土地	8,592	8,816	8,638
その他	1,800	1,025	822
無形固定資産	11,210	8,402	7,869
ソフトウェア	4,457	3,844	3,706
ソフトウェア仮勘定	3,653	1,511	1,335
のれん	—	58	96
その他	3,098	2,988	2,731
投資その他の資産	69,287	68,819	70,490
投資有価証券	4,769	4,798	5,025
繰延税金資産	4,596	4,159	4,092
長期差入保証金	52,634	52,781	53,725
その他	8,704	8,567	9,000
貸倒引当金	△1,419	△1,488	△1,353
資産合計	235,722	218,821	221,388

(単位:百万円)			
	2008年8月期 2008年8月31日現在	2008年2月期 2008年2月29日現在	2007年8月期 2007年8月31日現在
[負債の部]			
流動負債	91,468	78,451	82,755
買掛金	42,725	36,088	45,324
加盟店借勘定	4,210	2,496	4,084
未払金	6,132	5,862	4,983
未払法人税等	5,235	3,304	4,056
預り金	28,715	26,630	19,772
賞与引当金	798	771	773
役員賞与引当金	20	47	28
ポイント引当金	80	80	70
その他	3,548	3,169	3,662
固定負債	15,506	15,738	16,228
退職給付引当金	547	708	2,516
債務保証損失引当金	136	136	—
預り保証金	11,013	11,096	11,459
リース資産減損勘定	1,176	914	1,312
その他	2,632	2,882	940
負債合計	106,974	94,189	98,983
[純資産の部]			
株主資本	128,279	124,084	121,667
資本金	8,380	8,380	8,380
資本剰余金	36,093	36,093	36,093
利益剰余金	88,832	84,636	82,218
自己株式	△5,026	△5,025	△5,025
評価・換算差額等	467	523	658
その他有価証券評価差額金	467	523	658
少数株主持分	—	24	78
純資産合計	128,747	124,631	122,404
負債純資産合計	235,722	218,821	221,388

買掛金

買掛金は商品代金・各種費用の中間期末時点における未払い残高です。上期を通して8月度の売上が最も高くなるため、買掛金は前期末に比べ66億3千7百万円増加しました。

預り金

2008年8月期末の預り金は287億1千5百万円と、前期末に比べ20億8千5百万円増加しました。預り金の主な内容は、公共料金などの収納代行サービスによる取扱いと電子マネーEdyへのチャージ(入金)です。料金収納の取扱い額は毎期伸長しており、当中間期も前年同期比6%増加いたしました。

営業総収入

一般の小売業であれば売上高がそのまま収益となります、フランチャイズ事業を営む当社は営業総収入が収益となります。営業総収入は営業収入と売上高から構成されており、営業収入は加盟店から受領するロイヤルティが約9割を占め、その他はエリアフランチャイザーからの収入や不動産賃貸収入などです。また、売上高は自営店の売上高を指します。当中間期は既存店売上高前年比+2.7%と売上の好調を受け、加盟店からの収入が前年同期比7億6千4百万円増加したことにより、自営店の売上高も38億9千9百万円増加したことから、営業総収入は前年同期を44億6千万円上回り1,090億1千7百万円となりました。

販売費及び一般管理費

広告宣伝費が前年同期に比べ10億3千8百万円減少し、販売費及び一般管理費全体では前年同期を8億2百万円下回る572億5千6百万円となりました。

営業外費用、特別損失

閉店数が前年同期より118店減少したことにより、営業外費用の大半を占める解約損害金が前年同期を4億3千4百万円下回りました。また、特別損失においても閉店費用である固定資産処分損およびリース解約損は、合わせて前年同期比1億7千2百万円減少しました。

システム投資費用

当期の設備投資の状況は、新店投資の投資額が前期に比べ減少しているのに対し、P.5でご紹介のサービス機器や新システムの導入が下期より本格化するため、当期のシステム関連投資額は前年比69億4千5百万円増加し113億4千7百万円となる見込みです。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	2008年8月期 2008年3月1日から 2008年8月31日まで	2007年8月期 2007年3月1日から 2007年8月31日まで	増減
営業収入	59,241	58,681	560
売上高*	49,775	45,875	3,899
営業総収入	109,017	104,556	4,460
売上原価	38,051	34,931	3,120
営業総利益	70,965	69,625	1,340
販売費及び一般管理費	57,256	58,058	△802
営業利益	13,709	11,567	2,142
営業外収益	698	801	△102
営業外費用	812	1,260	△447
経常利益	13,595	11,108	2,486
特別利益	187	148	39
特別損失	3,317	3,291	26
税金等調整前中間純利益	10,466	7,965	2,500
法人税、住民税及び事業税	5,098	3,961	1,137
法人税等調整額	△480	△435	△44
少数株主利益(△:損失)	△24	△46	22
中間純利益	5,871	4,486	1,385

*自営店の売上高で、加盟店売上高は含まれていません。

投資の状況(連結ベース)

(単位:百万円)

	07／8期	08／2期	08／8期	09／2期(予)
新店投資	5,700	12,894	4,865	11,727
既存店投資	1,543	2,668	2,137	2,913
システム関連投資	1,204	4,402	2,561	11,347
本部関連投資	373	741	1,112	1,783
設備投資計①	8,820	20,705	10,673	27,770
リース対応分②	4,957	13,992	2,340	14,740
総投資額(①+②)	13,777	34,697	13,014	42,510

中間連結株主資本等変動計算書

2008年8月期 (2008年3月1日から2008年8月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2008年2月29日残高	8,380	36,093	84,636	△5,025	124,084	523	523	24	124,631
当中間期中の変動額									
剰余金の配当			△1,675		△1,675				△1,675
中間純利益			5,871		5,871				5,871
自己株式の取得				△1	△1				△1
自己株式の処分		△0		0	0				0
株主資本以外の項目の 当中間期中の変動額(純額)						△55	△55	△24	△79
当中間期中の変動額合計	—	△0	4,196	△1	4,195	△55	△55	△24	4,115
2008年8月31日残高	8,380	36,093	88,832	△5,026	128,279	467	467	—	128,747

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2008年8月期 2008年3月1日から 2008年8月31日まで	2007年8月期 2007年3月1日から 2007年8月31日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,431	16,329	10,102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,119	△8,514	△1,605
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,834	△1,964	129
現金及び現金同等物の増加額	14,477	5,849	8,627
現金及び現金同等物の期首残高	66,763	64,957	1,805
新規連結子会社の増加に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	502	△502
現金及び現金同等物の中間期末残高	81,240	71,309	9,930

現金及び現金同等物の中間期末残高

P.11で紹介の通り、売上の好調で税金等調整前中間純利益が前年同期比25億円増加したことから、営業活動によるキャッシュ・フローは101億2百万円増加しました。一方、投資活動によるキャッシュ・フローは△101億1千9百万円、財務活動によるキャッシュ・フローは△18億3千4百万円でした。この結果、現金及び現金同等物は144億7千7百万円増加し、2008年8月期の期末残高は前年同期末比99億3千万円増加の812億4千万円となりました。

中間個別貸借対照表

(単位:百万円)

	2008年8月期 2008年8月31日現在	2008年2月期 2008年2月29日現在
[資産の部]		
流動資産	105,842	92,848
固定資産	124,138	122,018
有形固定資産	44,156	44,279
無形固定資産	11,112	8,258
投資その他の資産	68,869	69,480
資産合計	229,981	214,867
[負債の部]		
流動負債	86,193	74,080
固定負債	15,024	15,302
負債合計	101,217	89,383
[純資産の部]		
株主資本	128,294	124,959
資本金	8,380	8,380
資本剰余金	36,093	36,093
利益剰余金	88,846	85,511
自己株式	△ 5,026	△ 5,025
評価・換算差額等	469	524
その他有価証券評価差額金	469	524
純資産合計	128,763	125,483
負債純資産合計	229,981	214,867

中間個別損益計算書

(単位:百万円)

	2008年8月期 2008年3月1日から 2008年8月31日まで	2007年8月期 2007年3月1日から 2007年8月31日まで
営業総収入	98,018	96,640
売上原価	30,641	29,867
営業総利益	67,377	66,773
販売費及び一般管理費	53,627	54,989
営業利益	13,750	11,783
営業外収益	652	750
営業外費用	1,095	1,271
経常利益	13,307	11,263
特別利益	187	136
特別損失	4,065	3,329
税引前中間純利益	9,429	8,069
法人税、住民税及び事業税	5,037	3,951
法人税等調整額	△ 618	△ 462
中間純利益	5,010	4,580

中間個別株主資本等変動計算書

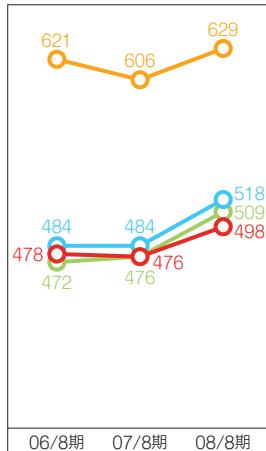
2008年8月期 (2008年3月1日から2008年8月31日まで)

(単位:百万円)

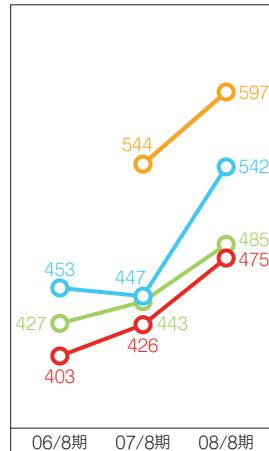
	株主資本									その他 有価証券 評価 差額金	評価・換算 差額等 合計	純資産 合計			
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計						
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 別途 積立金	利益 剰余金 合計								
2008年2月29日残高	8,380	36,090	3	36,093	687	76,221	8,602	85,511	△ 5,025	124,959	524	524	125,483		
当中間期中の変動額															
剰余金の配当						△ 1,675	△ 1,675			△ 1,675			△ 1,675		
中間純利益							5,010	5,010		5,010			5,010		
自己株式の取得									△ 1	△ 1			△ 1		
自己株式の処分			△ 0	△ 0					0	0			0		
別途積立金の積立						3,500	△ 3,500	—		—			—		
株主資本以外の項目の 当中間期中の変動額(純額)											△ 54	△ 54	△ 54		
当中間期中の変動額合計	—	—	△ 0	△ 0	—	3,500	△ 164	3,335	△ 1	3,334	△ 54	△ 54	3,279		
2008年8月31日残高	8,380	36,090	3	36,093	687	79,721	8,437	88,846	△ 5,026	128,294	469	469	128,763		

コンビニエンスストア業界比較

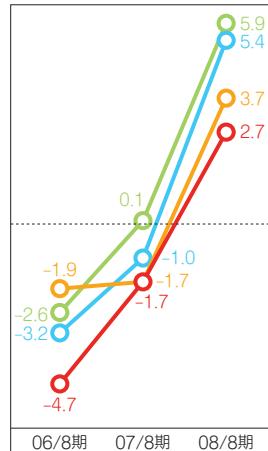
全店日販
1日1店あたり平均売上高
(単位:千円)



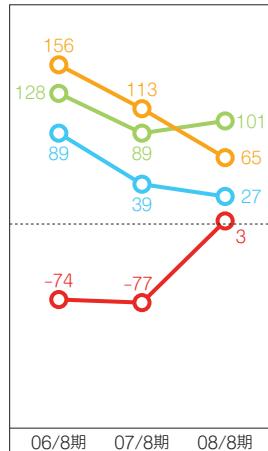
新店日販
新店(=開店後1年以内の店)の1日1店あたり平均売上高
(単位:千円)



既存店売上高前年比
既存店(=開店後1年以上経過した店)の売上高前年比
(単位:%)



店舗純増減数
(単位:店)



● サークルKサンクス ● セブン-イレブン ● ローソン ● ファミリーマート

全店日販

08／8期はtaspoカード導入をきっかけとしたたばこやその他の商品売上への好影響もあり、4社とも07／8期を大きく上回りました。セブン-イレブンは60万円台となり、ローソンとファミリーマートはいずれも50万円台、サークルKサンクスは07／8期比2万2千円増の49万8千円となりました。

新店日販

08／8期の4社の新店日販は前年同期を大幅に上回り、セブン-イレブンが5万3千円増、ローソンが9万5千円増、ファミリーマートが4万2千円増、サークルKサンクスが4万9千円増となりました。

既存店売上高前年比

07／8期は、ファミリーマートを除く3社が前年比マイナスとなっていましたが、08／8期では4社ともに前年比プラスとなり、セブン-イレブンが3.7%、ローソンが5.4%、ファミリーマートが5.9%、サークルKサンクスが2.7%と大幅な改善を図ることができました。

店舗純増減数

08／8期は、4社ともに店舗数純増となりました。なお、08／8期末のエリアフランチャイザーを除く国内の店舗数は、セブン-イレブン12,099店、ローソン8,614店、ファミリーマート6,792店、サークルKサンクス4,932店でした。

コンビニエンスストア(CVS) 業界データ

	(単位:億円)	06/2期	07/2期	08/2期
CVS業界売上高	73,595	73,990	74,895	
上位4社占有率	78.7%	79.1%	79.6%	

- (注) 1. 各社実績は、各社の決算発表資料および報道資料などより引用しました。
なお、セブン-イレブンの06／8期の新店日販は決算発表資料における記載がないため、上記グラフより除いております。
2. 上位4社の売上高占有率は、08／2期において業界4位内の各社を各期毎に合計したもので算出し、エリアフランチャイザーの数値を除いております。

コンビニエンスストア業界の動向

コンビニエンスストア業界全体の売上高は毎期伸長しており、08／2期では前年比1.2%増の7兆4,895億円となりました。また、業界全体の売上高に占める上位4社の売上高の占有率も毎期伸長しており、08／2期では前年比0.5%増の79.6%と、上位4社による寡占化がより進む結果となりました。

社会的責任への取組み

環境保護・社会貢献活動

店頭募金のご報告

当社では、1年を3期間に分け、期間毎に「全国盲導犬普及キャンペーン」、「緑の募金」、「ユニセフ募金」の3つの寄託先への店頭募金を行っています。

森をつくろう!!

ユニークループではキリンビール株式会社とタイアップし、商品の売上的一部分を森林保全活動に役立てる「『麒麟淡麗(生)』緑の募金デザイン缶」を2008年3月に数量限定で発売しました。



省エネ化・二酸化炭素削減に向けての取組み

環境省の呼びかけで毎年実施されている「CO₂削減・ライトダウンキャンペーン」が本年は6月と7月の2回実施され、当社でも多くの加盟店が参加しました。また、店舗設備のより一層の省エネ化・二酸化炭素削減に向けて、LED(発光ダイオード)ユニットを使用したポール看板の実証実験を行っています。これにより通常の蛍光灯と比較し消費電力を約55%、二酸化炭素の年間排出量を約530kg削減することができます。今後も今回の実証実験を踏まえ、環境に配慮した方策を実施していきます。



ライトダウンキャンペーンに参加し、ファザード看板を消灯したサンクス

包括協定の強化

当社は地産地消や観光振興、子育て支援など多項目に渡る包括協定を5月に石川県、9月には岐阜県と締結し、地域行政と連携した取組みを強化しています。包括協定にもとづいた子育て支援の一環として、石川県と岐阜県の数店舗の駐車場に妊娠婦のお客様優先区画を設置しました。今後も行政との連携と協力を図り、地域に愛されるお店を目指してまいります。



サークルK金沢新神田店に設置された「マタニティマーク」

「社会環境報告書2008」発行

2008年7月31日、「社会環境報告書2008」を発行しました。本報告書では、2008年6月の新ユニフォーム導入に伴う、旧ユニフォームをマイバッグにリサイクルする業界初の試みを含め、2007年度の取組みのご報告と本年度の目標についてご紹介しています。当社のホームページにて実際にページをめくる要領でご覧いただけます。E@BOOK形式で掲載しております。また、ご希望の方には郵送もさせていただいておりますので、下記の当社ホームページまたは添付のアンケートハガキよりご請求下さい。



【当社ホームページ お問い合わせ「環境報告書のご請求」】

<http://www.circleksunkus.jp/inquiry/>

株主様アンケート結果のご報告

2008年2月期「WAKUWAKU!株主通信」において、アンケートを実施させていただきましたところ、これまでで最も多い1,552名の方よりご回答をお寄せいただきました。お忙しい中ご協力いただき誠にありがとうございました。下記にご回答の集計結果をご報告させていただきます。

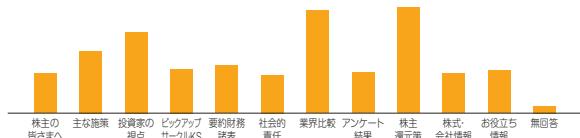
Q1. 今後、当社株式についてどのような方針をお持ちですか？

07/8期末に比べてほとんど変化は見られませんでしたが、「買い増し」は1ポイント減少し、「長期保有」は1ポイント増えました。



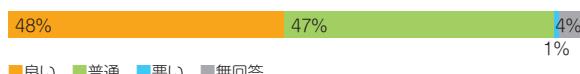
Q2. 今回の「WAKUWAKU!株主通信」で興味を持たれた項目は？

「コンビニエンスストア業界比較」や「株主還元策」の2項目がもっとも高い関心を集めました。特に「業界比較」は、他社と比較ができる参考になるなどご評価をいただきました。また、前回の2008年2月期「WAKUWAKU!株主通信」では商品を紹介するページを充実させたことにより、商品情報を含む「投資家の視点」への関心度が大きく改善しました。



Q3. 当社IRについて、どう思われますか？

07/8期末に比べると「良い」と「普通」がそれぞれ1ポイントずつ増加しました。「良い」理由として、株主通信の分かりやすさやホームページのIRサイトが充実しているというご意見を多くいただきました。今後も「良い」というご評価を少しでも多くいただけるよう、さらなる内容の充実を目指していきます。

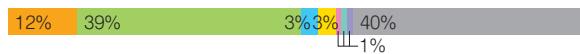


Q4. 「Cherie Dolce」をお試しいただいたことはありますか？

「試したことがある」とご回答された株主様は残念ながら2割強と低い結果になりましたが、その内8割強の株主様からは「もう一度買ってみたい」という大変嬉しいご評価をいただきました。店頭には専門店にも負けないこだわりのデザートを多数品揃えしておりますので、株主の皆さんにお試しいただければ幸いです。



どのような点が良かったですか？



もう一度このシリーズを試してみたいと思いますか？



ご質問・ご要望より

Q. 健康に配慮した商品を開発して欲しい。

A. 2008年4月より特定健康診断・特定保健指導が始まりました。当社ではそれ以前の2006年7月より健康志向のお客様をターゲットとした「THINK BODY」シリーズを展開しています。当中間期にも、お米と一緒にこんにゃく成分である「マンナンヒカリ」を炊き込むことにより、美味しさは従来通りでカロリーを大幅に低減することに成功した「THINK BODY カロリーコントロールおにぎり」を販売するなど積極的な展開を行いました。今後も健康志向が高まる現代社会にピッタリな「THINK BODY」シリーズを強化していく方針です。

Q. パソコンを持っていないのでKARUWAZA CLUBカードのポイント残高がわからない。

A. P.5でご紹介の店頭マルチメディア端末「カルワザステーション」では、パソコンや携帯電話などのインターネット環境をお持ちでないお客様でも新規入会登録やポイント確認・交換が簡単にできるようになりました。詳細はP.5をご覧下さい。



アンケートご協力のお願い

当社は株主様のご意見を直接お聞かせいただく貴重な機会として、アンケートを実施させていただいております。この株主通信やIR活動、経営全般に対する率直なご意見をお寄せいただければ幸いです。頂戴したご意見は経営陣へ報告するとともに、できる限り今後のIRおよび株主通信にも反映させてまいります。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。ご回答をご記入のうえ、ご住所とお名前の欄に添付のプライバシー保護シールを貼り、切手を貼らずにそのままご投函下さい。

個人情報の取り扱いについて

アンケートにご記入いただきました個人情報は、アンケート結果の分析および頂戴したご質問などに対する当社からの返信のみに使用し、法令を遵守のうえ厳格に管理いたします。

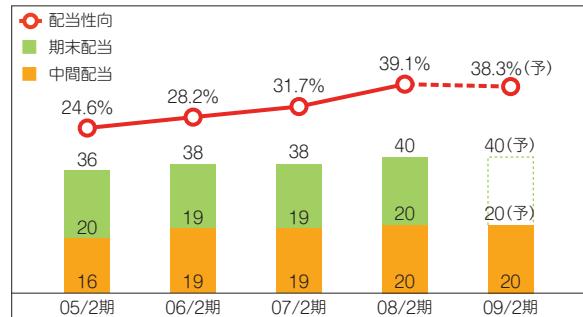
株主還元策

株主還元策の基本方針

当社は、株主様に対する利益還元について、配当政策を最も重視しています。将来の事業成長を維持するのに必要な経営基盤を強化するため、内部留保を充実させながら、利益の成長に応じて株主の皆さんに利益還元を行うことを基本方針としています。具体的には、安定配当の維持を第一に考えながら、連結配当性向30%以上を目処に、中期的な収益環境、設備投資計画および財政状態を見極めつつ株主還元を実施してまいります。なお、当中間期の配当は1株あたり20円とさせていただきました。また、期末配当金につきましても、1株あたり20円とさせていただく予定で、通期の配当性向は38.3%となる見込みです。

配当金／配当性向

(単位:円)

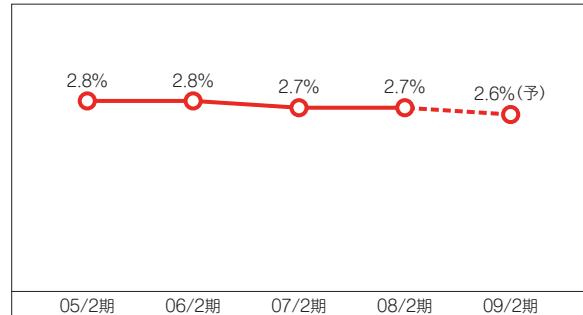


WAKU²豆知識

「純資産配当率(DOE)って何??」

純資産配当率とは、株主の皆さんからお預かりしている資産に対して、どのくらいの配当が還元されたかを示す指標です。配当性向は、当期純利益のうち何パーセントが配当金として支払われているかを表すため、利益に左右されやすい面があります。純資産配当率は、配当性向と併せて企業の株主様への利益還元率を示すものとして使われています。

純資産配当率(DOE)



株主優待制度

当社ではサークルK・サンクス全店でご利用いただける「株主様ご優待カード」を右表の通り株数に応じて年2回進呈しています。下記*を除くすべての商品のお支払いにご利用いただけます。お近くに店舗のない株主様には大変ご不便をおかけいたしますが、約1年間有効ですので、出店地域へお出かけの際にご利用いただければ幸いです。なお、今回の株主様ご優待カードには、P.3でご紹介したパスタ新ブランド「rubetta」のロゴマークをデザインしました。本格派パスタをバラエティ豊かに品揃えして、株主様のご来店をお待ちしております。

ご所有株式数	株主優待内容
100～499株	1,000円分 (年2,000円分)
500～999株	2,500円分 (年5,000円分)
1,000株以上	5,000円分 (年10,000円分)



* 有効期限の詳細については裏表紙のカレンダーをご参照下さい。なお、有効期限を過ぎたカードはご利用いただけませんのでご了承下さい。

* 「株主様ご優待カード」をご利用いただけないもの

- 公共料金や通信販売代金などの料金収納
- 電子マネーEdyへのチャージ(入金)

サークルKサンクス IRニュース!!



大和IR選定「2008年インターネットIRサイト優秀企業賞」受賞!!

大和インベスター・リレーションズ株式会社が上場企業1,879社のIRサイトを評価した結果、当社を含む402社が優秀企業に選ばれました。また、当社は業種別で小売業部門のベスト3にも選出されました!!

株式情報／会社情報 (2008年8月31日現在)

株式構成比



株主構成比



(注) 1. ()内は08/2期末比
2. 個人等には、役員、社員持株会および自己株式を含む。

株主数の推移 (単位:名)

07/8末	20,326
08/2末	21,331
08/8末	20,254

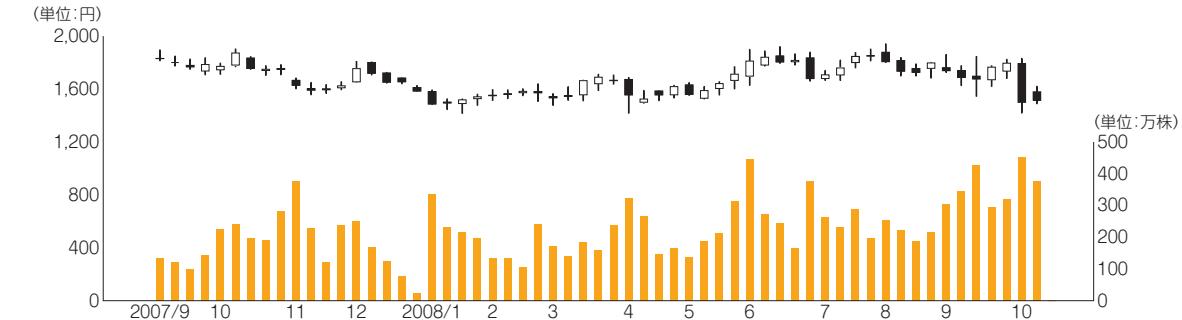
株主数は前期末より1,077名減少しました。これに伴い、株主構成比の「個人等」は0.1ポイント減となりました。一方、株式構成比では「金融機関」が1.4ポイント減少する一方、「外国法人等」は2.2ポイント増加しました。

大株主 (上位10位)

株主名	持株数(株)	持株比率
1 ユニー株式会社	40,746,520	47.28%
2 ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	6,180,258	7.17%
3 日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	4,462,200	5.18%
4 メロンバンク エヌエーアズ エージェント フォーイツ クライアントメロン オムニバス ユーエスベンション	1,187,663	1.38%
5 ドイチュバンクアーグーロンドン ビービー ノントリティー クライアント 613	1,016,536	1.18%
6 野村證券株式会社	901,600	1.05%
7 シージエムエルロンドン エクイティ	873,700	1.01%
8 日本マスタートラスト信託銀行 株式会社	856,900	0.99%
9 モルガン・スタンレー アンド カンパニー インク	737,555	0.86%
10 ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックスエグゼンブテド ベンジョン ファンズ	638,283	0.74%

(注) 当社は自己株式2,426,336株を所有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

株価および出来高の推移



会社概要

商号	株式会社サークルKサンクス
本部所在地	〒104-8538 東京都中央区晴海2-5-24 晴海センタービル
電話番号	03-6220-9000 (代表)
登記上本店所在地	愛知県稻沢市天池五反田町1番地
ホームページアドレス	http://www.circleksunkus.jp/
設立	2001年7月2日 ^(注)
資本金	83億8,040万円
発行済株式総数	86,183,226株
銘柄コード	3337 サークルKS
従業員数	1,732名

(注) サークルKサンクスの前身であるサークルケイ・ジャパン株式会社が、持株会社の株式会社シーアンドエス発足に伴い会社分割した日。会社分割前のサークルケイ・ジャパン株式会社は1984年1月26日設立。

役員のご紹介 (2008年8月31日現在)

取締役会長	ひじかた 土方 清
代表取締役社長	なかぐら 中村 元彦
常務取締役 (経営戦略室長)	あんどう 安藤 照康
取締役 (エリアFC本部長)	たかはし 高橋 一夫
取締役 (総務人事本部長 兼 システム本部長)	やまと 山田 克巳
取締役 (経理財務本部長)	やまと 山口 利隆
取締役 (非常勤)	さくま 佐々木孝治
常勤監査役	たかす 高須 邦夫
常勤監査役	やまと 山口 勉
監査役	かわらがわ 桂川 明
監査役	つづき 都築 義明

(注) 1. 取締役 佐々木孝治は社外取締役です。

2. 監査役 桂川明、都築義明は社外監査役です。

株主様お役立ち情報

株主様カレンダー

2008.11.13

- ①中間配当関係書類
- ②株主様ご優待カード
- ③本冊子を発送



2008.11.14

配当金振り込みの方
↓
本日付でご指定の口座へ
振り込まれます

2008.11.14-12.15

配当金領収証受け取りの方
↓
ゆうちょ銀行および郵便局で
お受け取りになります

(12.16以降はお近くの
住友信託銀行にて
お受け取り下さい)

2008.11.30

株主様ご優待カード
ご利用最終日
(07年秋発行分)

優待カードの
ご利用は
お早めに!



2008.12.29(予定)

09年2月期第3四半期
決算発表

2009.2.12-2.28

単元未満株式買増し
手続き停止期間

2009.2.24

サークルKサンクス
権利付株式最終売買日
↓
2.25-2.27に当社株を
ご購入されても、
09年2月末における配当・
優待の権利は得られません

2009.2.28

09年2月期末

2009.4.9(予定)

09年2月期決算発表

2009.5.20(予定)

第8回定時株主総会

2009.5.31

株主様ご優待カード
ご利用最終日
(08年春発行分)

優待カードの
ご利用は
お早めに!



2009年2月期中間配当：1株あたり20円

お支払い金額=20円×ご所有株式数×0.9

(×0.9は源泉徴収税として10%が引かれるため
※法人の場合を除く)

単元未満株式買増し制度

単元(100株)未満株式の買増し制度により、例えば現在30株をお持ちの場合、70株を買増して100株にすることが可能です。下記の受付停止期間を除いて1年中いつでも買増しいただけます。手続きの詳細は、株式のご所有形態によって異なりますので、下記までお尋ね下さい。

◆ 受付停止期間

本決算および中間決算の期末日を含む各々それ以前の12営業日(上記カレンダーご参照)
※当社が売り渡すべき株式を保有していない場合、
ご請求に応じられないことがあります。

◆ お問い合わせ先

保管振替制度をご利用の方 → お取引の証券会社
登録株となっている方 → 住友信託銀行
(右記「株主メモ」ご参照)

株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について

平成21年1月5日(見込み)に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である右記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、右記の電話照会先にお願いいたします。

株主メモ

事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで

定時株主総会 每年5月開催

基準日 定時株主総会: 每年2月末日
期末配当: 每年2月末日
中間配当: 每年8月31日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

単元株式数 100株

上場証券取引所

東京証券取引所および名古屋証券取引所市場第一部

公告方法 電子公告。ただし、事故その他やむをえない事由によつて電子公告による公告をすることのできない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(インターネットホームページURL)
<http://www.circleksunkus.jp/company/investor/announce/index.html>

株主名簿管理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

住所変更等用紙のご請求
その他ご照会 ☎ 0120-175-417
☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiiko/index.html>

同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店